

認知症講座に 生徒聞き入る

福山高

霧島市の福山高高校で
16日、認知症サポーター

養成講座があった。生徒や職員ら約170人が、認知症への理解を深めた。写真。

福祉をテーマとした学習「夢プラン」の一環。福祉施設の職員3



人が講師を務めた。65歳以上の高齢者で10人に1人、85歳以上の4人に1人が認知症であることやその症状を説明。周囲の理解が大切であることも訴えた。

生徒はメモを取り、熱心に聞いた。生徒には認知症サポーターの印である「オレンジリング」が送られた。

同校は毎年、老人ホームなどで介護体験実習を行う。商業科3年の山口夏美さん(18)は「学んだことをこれから生かしていきたい」と話した。

11/27 南日本新聞掲載
(火)

『講師は霧島市地域包括支援センターの福田竜光氏と、当法人の吉元和浩理事長、金田千代子在宅介護支援センター所長です。』